

小子坊（お寺の使用人の部屋）

小子坊は、寺の南側にある小さな建物である。現在では、参拝者の休憩所として利用されているが、これまで何度か改築・移築・再利用されてきた。小子坊は、日本の伝統建築が自然災害や老朽化、時代の変化に応じて容易に解体・再利用されることを示す好例である。

棟札には、1663年に建てられたと記されている。しかし、材木を調べてみると、はるかに古い材料が使われていることがわかった。小子坊は元々、元興寺の2つの巨大な宿舎のうちの1つだったと考えられている。この建物の名前は「青年のための宿舎」を意味しており、寺の使用人として働く沙弥のための生活空間であったと考えられている。その後、建物の一部は北側の厨房として再利用された。1663年には極楽堂に移され、管理と生活のための空間（庫裡）となった。

1949年には極楽堂の南側に移され、極楽堂保育園として増築された（保育園はその後移転したが、現在も運営している）。1960年に現在の場所に移され、かつての規模に縮小された。木造の梁は様々な時代のものが使われており、建物の一部はやや南に傾いているなど、様々な変遷の跡が見られる。